

共同声明

1. マンモハン・シン・インド首相閣下の日本訪問に際し、2008年10月21日、二階経済産業大臣とカマル・ナート商工大臣は、幅の広い、より深遠な二国間経済関係の構築に向け、第2回日印政策対話を行った。
2. 両大臣は、日印間の EPA/CEPA の交渉における実質的進展に満足の意を表明した。両大臣は、両国の交渉官に対し、残された課題に対する相互に受け入れ可能な解決に向けて取り組むことを要請した。
3. 両大臣は、日本とインドがアジアにおける主要国であることを認識し、二国間、地域あるいは多国間関係における課題について議論した。WTOドーハ・ラウンド交渉について、両大臣は、早期かつ成功裏の交渉妥結が国際貿易体制の維持・発展のため不可欠であるとの認識を共有し、引き続き両国が協力して、モダリティの早期確立に向けた交渉を推進していくことに決定した。
4. 両大臣は、デリー・ムンバイ間産業大動脈(DMIC)プロジェクトの推進のために重要なプロジェクト開発ファンド(PDF)の設置に向け、実質的な議論が進展していることを歓迎した。両大臣は、PDF の設置に向けた検討の加速の重要性を確認した。
5. 両大臣は、DMIC 地域における5つのアーリーバード・プロジェクト(リスト参照)に対する日本企業の積極的参加を歓迎した。両大臣はまた、マスタープランの検討とともに、インドの州におけるプロジェクト(リスト参照)の早期実施に対するDMIC 開発公社の取り組みを歓迎した。両大臣は、これらのプロジェクトが、日本企業のインドへの投資を刺激するとともに、両国の長期的利益に資する相互に有益なビジネス関係を促進させることに期待を表明した。
6. 両大臣は、両国の中小企業支援の重要性についての認識を共有し、JETRO による、中小企業を中心とした対印投資ビジネスミッションの派遣、デリーとムンバイの2つのビジネスサポートセンター(BSC)を活用した DMIC 地域への産業集積支援、インドの中小企業支援としての一村一品プロジェクトを歓迎した。

7. 両大臣は、本年6月に設置された東アジア・ASEAN 経済研究センター (ERIA) の活動に期待を表明し、ERIA におけるモデル・プロジェクトとして「東アジア産業大動脈 (EAIC)」構想を両国が支援していくことを決定した。両大臣は、この地域の雇用の拡大と経済格差の縮小に資する、ERIA における広域で国境を越えた包括的な開発計画の研究に対し、協力及び支援する意志を表明した。
8. 両大臣は、東アジア包括的経済連携(CEPEA)構想の実現に向けた更なる協力の重要性を認識した。

2008年10月21日、東京にて

インド商工大臣 カマル・ナート

日本国経済産業大臣 二階俊博

(別添)

DMIC 関係州におけるアーリーバード・プロジェクト(2008 年 10 月 18 日現在)

グジャラート州:

1. 総合巨大工業団地(ドレーラ)
2. 国際空港開発(アーメダバード近郊)
3. 高速道路の 6 車線化(アーメダバード - バタマン - ピプリ - バブナガール間)
4. 都市交通(ガンディナガール - アーメダバード - ドレーラ間)

マディヤ・プラデシュ州:

1. 経済動脈の開発(インドール空港 - ピタムプール経済特区間)
2. 統合・多目的物流拠点(マクシ - デワス間)
3. 工業地域における継続的給水 / 排水管理(ピタムプール工業地域)
4. ナレッジ・シティ(ウジャイン地区)

ハリヤナ州:

1. 都市交通(デリー - マネサール - パワル)
2. ジャパンシティ(ダルヘラ近郊)
3. 多目的物流拠点(マネサール)
4. 都市交通(パルワル - レワリ - ビワディ - フルクナガール - ジャッジャル間)

日本側アーリーバード・プロジェクト

1. 自由貿易倉庫地区プロジェクト(ウッタル・プラデシュ州)
: 三井物産株式会社
2. 生活インフラ整備のための複合都市開発(NCR)
: 三井物産株式会社
3. DMIC ものづくり人材育成プロジェクト(マハラシュトラ州(拠点)、インド全域)
: プロジェクト企画、提案:
 テクノプレーン株式会社、(システム技術協力:ソニー株式会社)
: プロジェクト実施予定機関:
 マハラシュトラ州 サイエンステクノロジーパーク公社
4. ニムラナ工業団地共同エネルギーセンター構想(ラジャスタン州)
: 日立製作所、ニムラナ工業団地進出企業
5. ニムラナ総合物流ハブ構築プロジェクト(ラジャスタン州)
: 日本郵船